

計画策定の趣旨と位置付け

第1章

川崎市における高齢者の状況

第2章

地域包括ケアシステム構築に向けた取組

第3章

第8期計画期間における施策の方向性

第4章

川崎らしい都市型の地域居住の実現

第5章

介護保険サービスの見込量と保険料

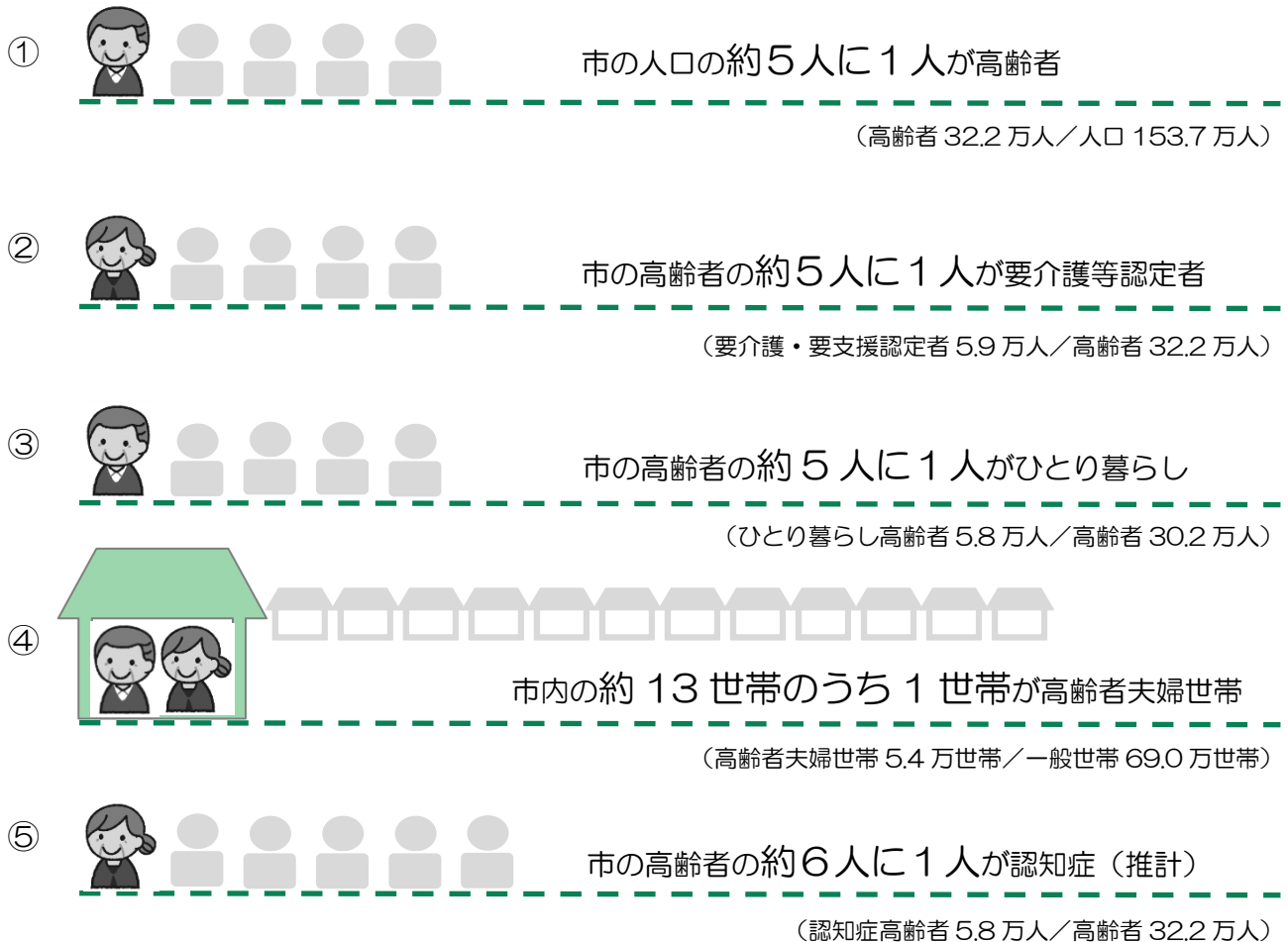
第6章

1 川崎市の高齢者の現状

本市は、令和2（2020）年10月1日時点で高齢者人口が約32万人となり、約5人に1人がひとり暮らし高齢者で、約13世帯に1世帯が高齢者夫婦世帯です。

また、要介護・要支援認定者（第1号被保険者）は5.9万人を超え、本市の全高齢者の約18.0%を占めるとともに、約5.8万人には、認知症があると推計しています。

【本市の高齢者の現状】



※この表は、本市の全体的な高齢者の現状をイメージしていただくためのものであり、表中の数値は概算です。

※②「要介護・要支援認定者」の数は令和2年10月1日時点で、第1号被保険者（65歳以上）の方をいいます。

※③「ひとり暮らし高齢者」、④「高齢者夫婦世帯」の数は、平成27年の国勢調査の結果です。「高齢者夫婦世帯」とは、少なくともいずれかが65歳以上の夫婦のみの世帯をいいます。

※「認知症」の方の数は、国の研究事業における認知症有病率に基づく推計であり、軽度認知障害（MCI）は含まれません。

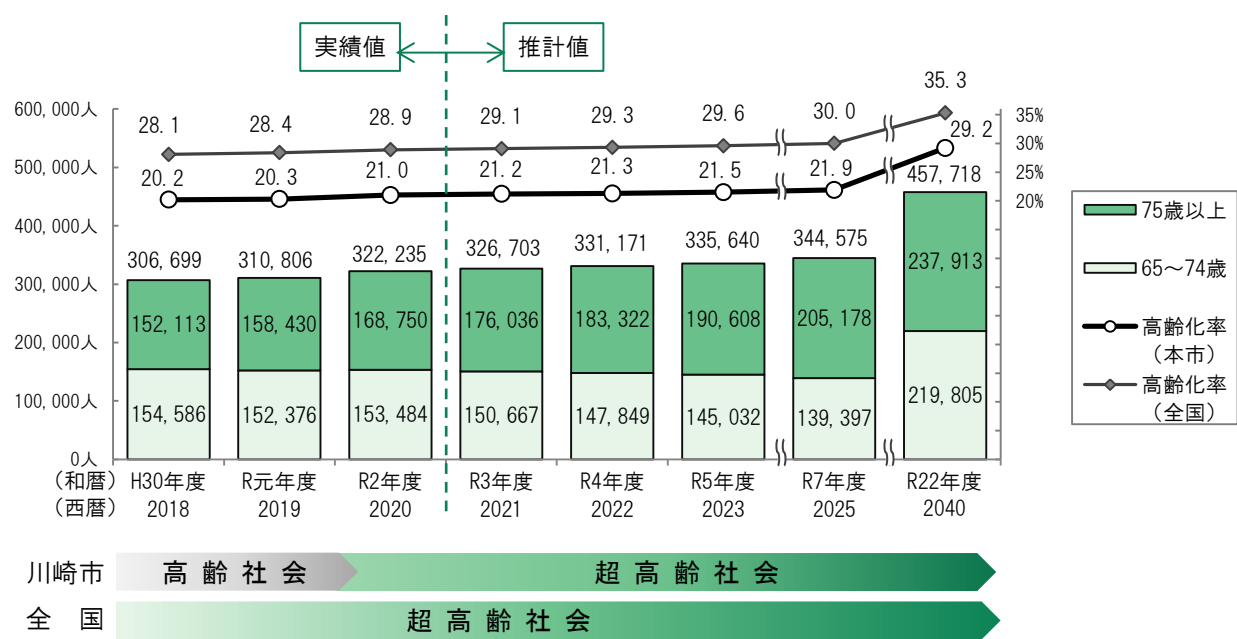
2 高齢者人口の推移

(1) 市全体の高齢化の状況

本市の高齢者人口は年々増加を続け、今後、高齢化率が21%を超え、超高齢社会★が到来します。

令和元（2019）年度には後期高齢者の数が前期高齢者の数を上回っており、後期高齢者数は、第8期計画の最終年度の令和5（2023）年度中に約19万人、令和7（2025）年度には約20万人になると見込まれます。さらに、令和22（2040）年度には高齢化率が29%を超える推計となっています。

【本市の高齢者人口の推移】



各年10月1日、人口単位：人								
	第7期計画期間			第8期計画期間			R7年度 (2025)	R22年度 (2040)
	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)		
総人口	1,516,483	1,530,457	1,536,980	1,544,131	1,551,281	1,558,432	1,572,733	1,567,190
高齢者人口	306,699	310,806	322,235	326,703	331,171	335,640	344,575	457,718
65～74歳	154,586	152,376	153,484	150,667	147,849	145,032	139,397	219,805
75歳以上	152,113	158,430	168,750	176,036	183,322	190,608	205,178	237,913
高齢化率	20.2%	20.3%	21.0%	21.2%	21.3%	21.5%	21.9%	29.2%
(全国)	28.1%	28.4%	28.9%	29.1%	29.3%	29.6%	30.0%	35.3%

※平成30～令和元年度の人口は、「川崎市年齢別人口」による数字、令和2年度以降の人口は、本市総務企画局が平成29年5月に公表した「川崎市総合計画第2期実施計画の策定に向けた将来人口推計について」をもとに推計を行っています。

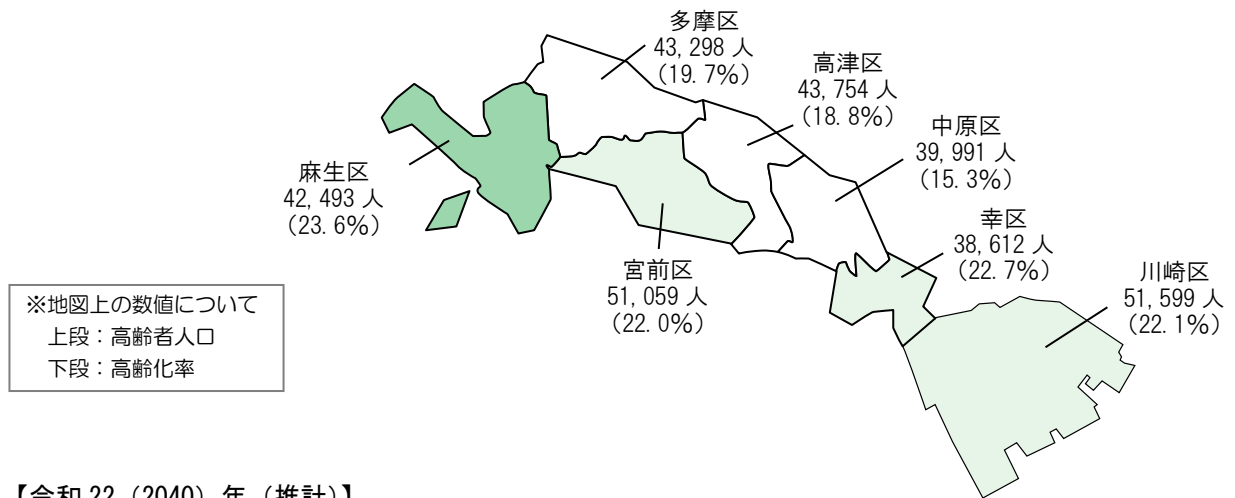
※全国の高齢化率は、平成30、令和元年度は「人口推計」（総務省）の確定値、令和2年度以降は、「日本の将来推計人口（平成29年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）から引用しています。

※65～74歳を前期高齢者、75歳以上を後期高齢者といいます。

(2) 行政区別にみた高齢化の状況

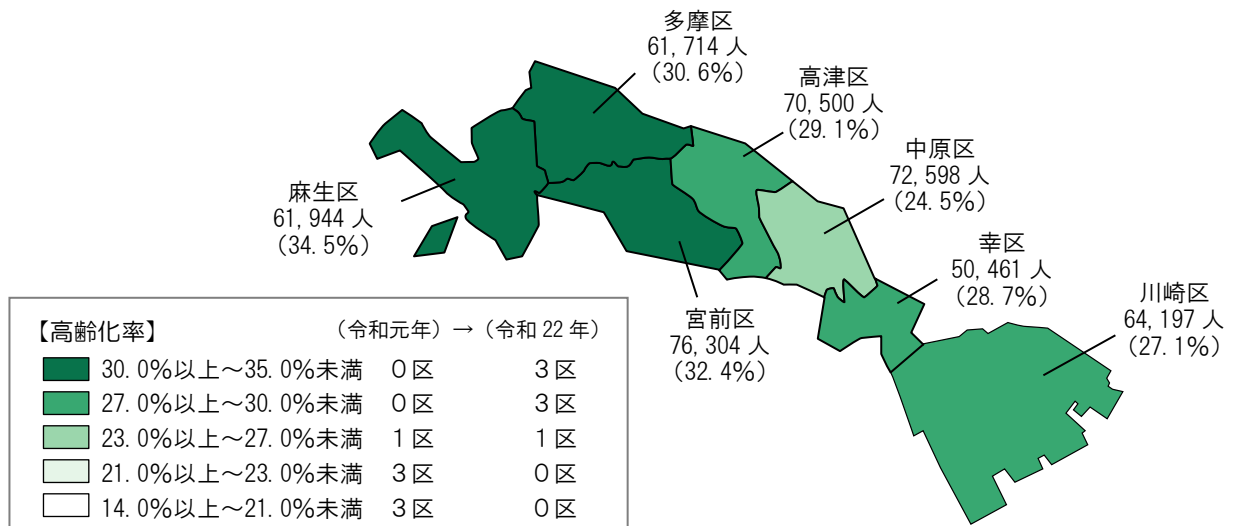
【令和元（2019）年 10 月】

▶川崎区、幸区、宮前区、麻生区で高齢化率が22%以上となっています。



【令和 22（2040）年（推計）】

▶高津区、宮前区、多摩区、麻生区の高齢化率が10ポイント以上上昇する見込みです。



【令和 22（2040）年の高齢化の進捗状況（推計）】

人口単位：人

	全市	川崎区	幸 区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
高齢者人口	457,718	64,197	50,461	72,598	70,500	76,304	61,714	61,944
対R元年差	+146,912	+12,598	+11,849	+32,607	+26,746	+25,245	+18,416	+19,451
高齢化率	29.2%	27.1%	28.7%	24.5%	29.1%	32.4%	30.6%	34.5%
対R元年差	+8.9ポイント	+5.0ポイント	+6.0ポイント	+9.2ポイント	+10.3ポイント	+10.4ポイント	+10.9ポイント	+10.9ポイント

※端数処理により合計値は内訳と必ずしも一致しません。



超高齢社会

世界保健機構（WHO）や国連の定義では、高齢化率（総人口のうち65歳以上の高齢者が占める割合）が7%を超えた社会は「高齢化社会」、14%を超えた社会は「高齢社会」、21%を超えた社会は「超高齢社会」とされています。

3 高齢者を取り巻く状況

(1) 要介護・要支援認定者の状況

本市の要介護・要支援認定者数は年々増加を続け、令和2（2020）年10月1日時点では、約5.9万人となっています。また、市の高齢者の約5.5人に1人が要介護・要支援認定を受けています。

第8期計画の最終年度の令和5（2023）年度中には、要介護・要支援認定者数は6.7万人を超え、さらに、令和7（2025）年度には約7.3万人、令和22（2040）年度には9.8万人を超える推計となっています。

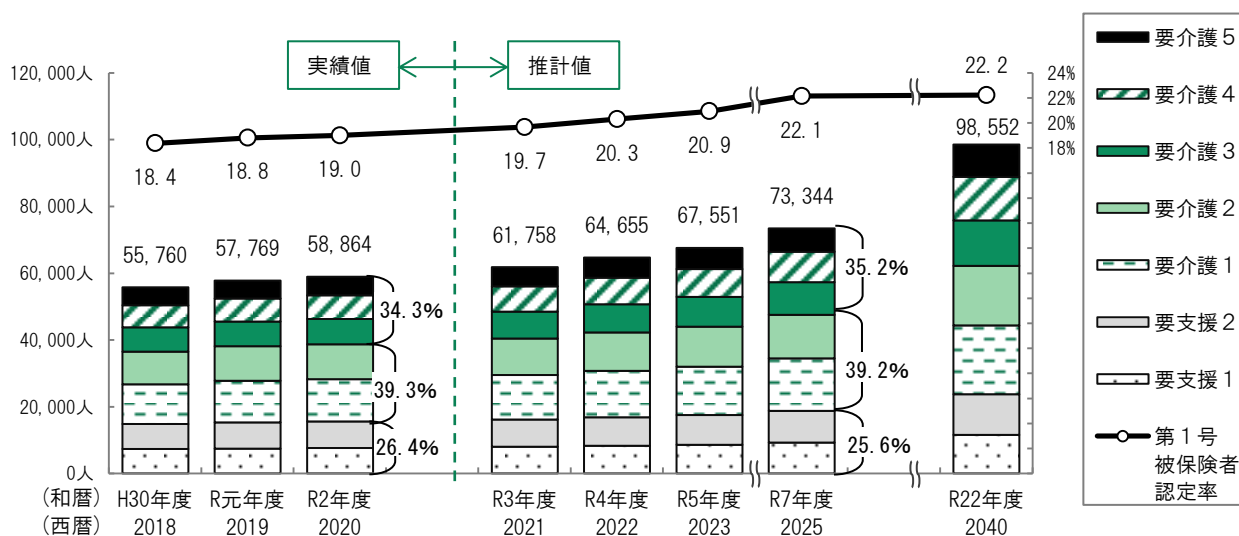
【本市の要介護・要支援認定者数の推移】

各年10月1日、単位：人

	第7期計画期間			第8期計画期間			R7年度 (2025)	R22年度 (2040)
	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)		
要支援1	7,317	7,427	7,638	7,954	8,267	8,581	9,212	11,561
要支援2	7,474	7,900	7,891	8,220	8,549	8,879	9,537	12,155
要介護1	11,922	12,417	12,686	13,281	13,877	14,473	15,662	20,640
要介護2	9,774	10,333	10,449	10,975	11,504	12,031	13,086	17,820
要介護3	7,279	7,448	7,629	8,051	8,473	8,894	9,741	13,644
要介護4	6,653	6,889	7,093	7,503	7,916	8,330	9,152	13,022
要介護5	5,341	5,355	5,478	5,774	6,069	6,363	6,954	9,710
第2号被保険者（再掲）	1,388	1,426	1,435	1,451	1,466	1,481	1,511	1,392
合 計	55,760	57,769	58,864	61,758	64,655	67,551	73,344	98,552

※要介護・要支援認定者数には、40歳以上64歳以下の医療保険加入の方（第2号被保険者）を含みます。

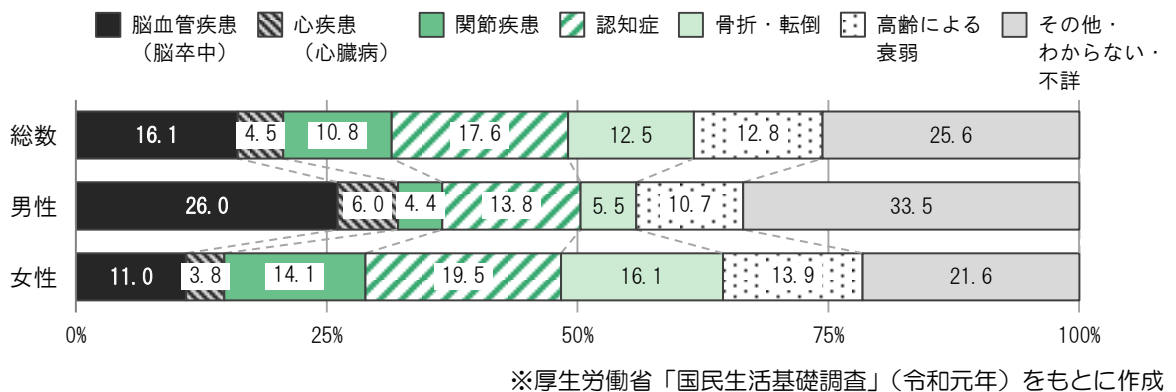
※令和3年度以降は、本市健康福祉局の自然体推計です。



※第1号被保険者とは、65歳以上の本市の介護保険の被保険者です。住所地特例等により65歳以上人口とは数値が異なります。

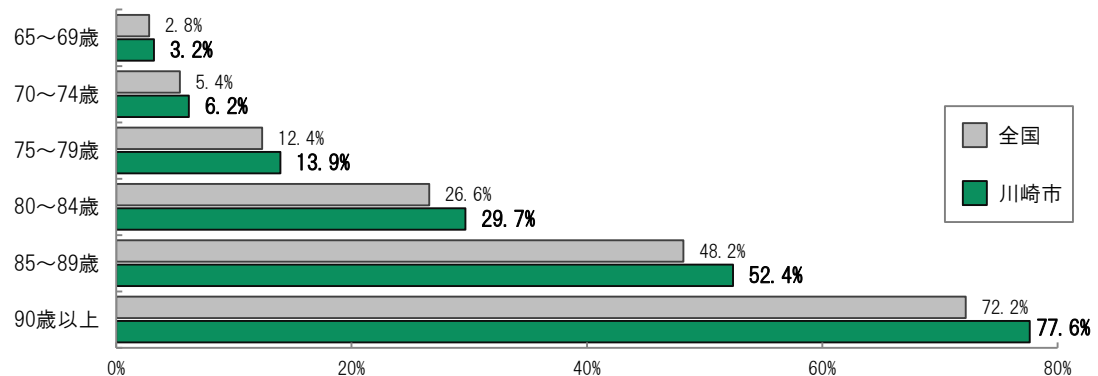
【介護が必要になった主な原因（参考：全国値）】

▶男性は脳血管疾患、女性は認知症の原因が最も多くなっています。



【年齢別の要介護・要支援認定率】

▶80歳以上になると、要介護・要支援認定を受ける割合が大きく上昇しています。

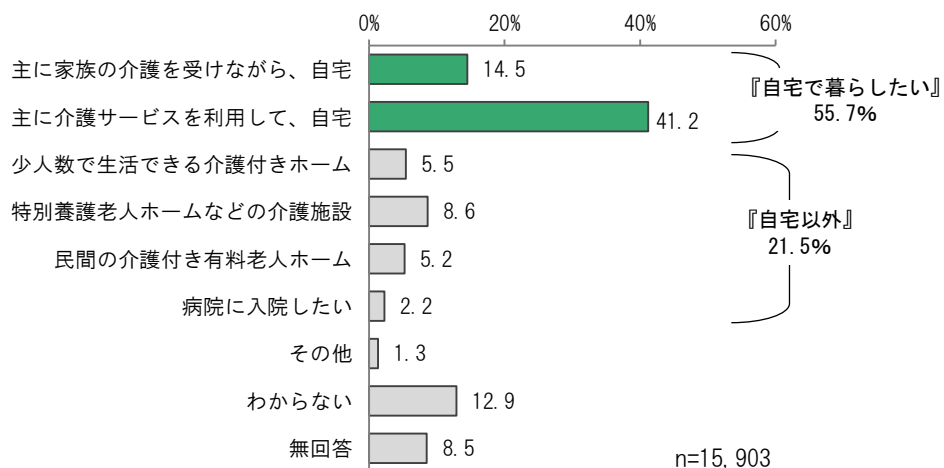


※全国値は介護保険事業状況報告（暫定）令和2年3月分により算出した概数、川崎市は令和2年4月1日現在

【介護が必要になった場合の本市の高齢者の意向】

問 あなたは、介護が必要になった場合、どのようにしたいですか（単一回答）。

▶約56%の人が介護が必要になっても「自宅で暮らしたい」と回答しています。

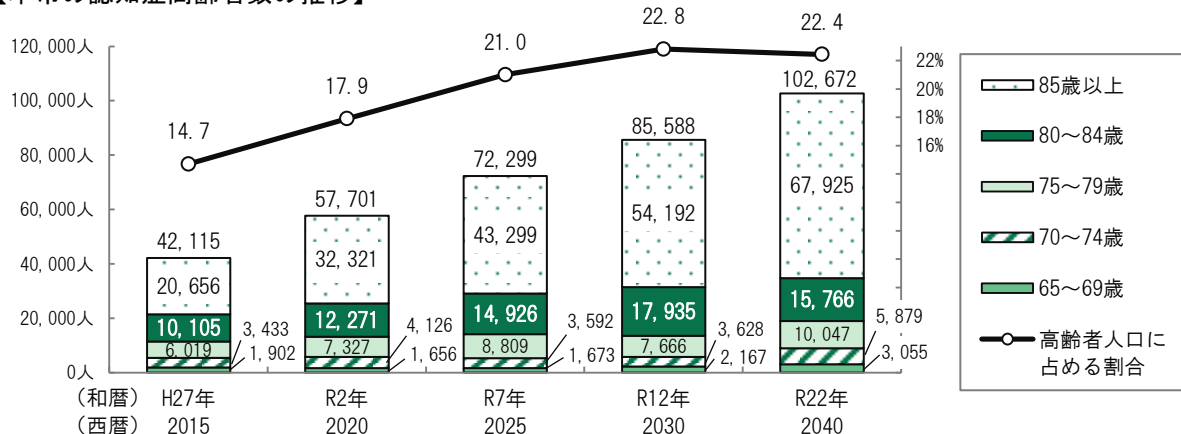


※令和元年度高齢者実態調査（一般高齢者）

(2) 認知症高齢者数の推移

本市の認知症高齢者数は、令和2（2020）年に5.7万人を超え、市の高齢者の約6人に1人が認知症であると推計しています。今後増加を続け、令和12（2030）年には約8.6万人、令和22（2040）年には約10万人まで増加すると想定しています。

【本市の認知症高齢者数の推移】



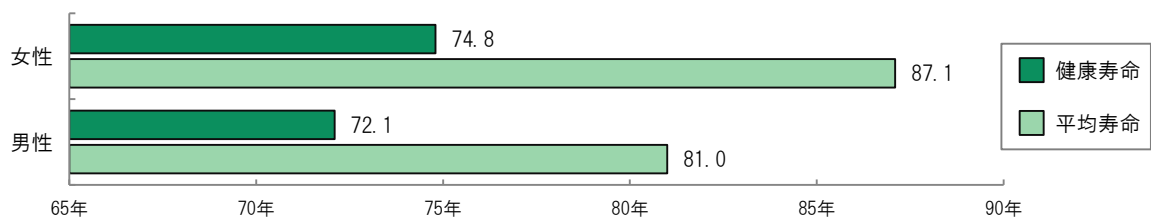
※「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学二宮教授）から作成しています。

※この推計は、平成27年国勢調査をベースに、本市総務企画局が平成29年5月に公表した「川崎市総合計画第2期実施計画の策定に向けた将来人口推計について」に、認知症有病率を乗じて算出したものです。認知症有病率に軽度認知障害（MCI）は含まれません。

(3) 平均寿命と健康寿命

平均寿命と健康寿命★の差は、男性で8.9年、女性で12.3年となっています。男女ともに日常生活に制限のある期間が長いことを示しています。

【平均寿命と健康寿命（参考：全国値）】



※平均寿命は厚生労働省「簡易生命表」、健康寿命は厚生労働省「国民生活基礎調査」をもとに算出した数値です。

※平成28年時点



健康寿命

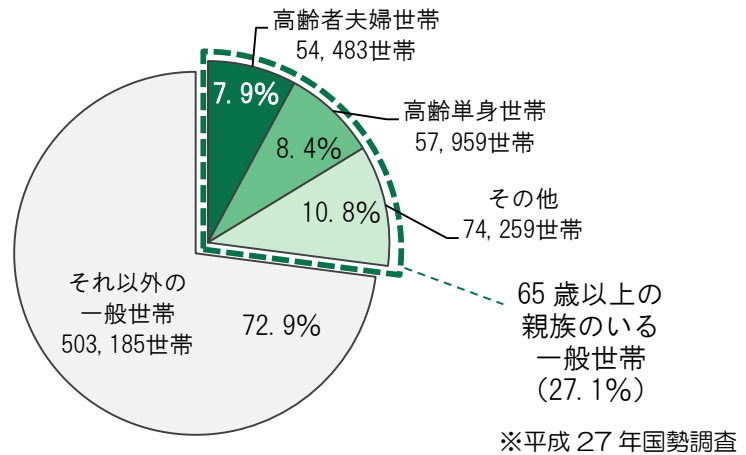
健康上の問題で日常生活が制限されることなく健康的に生活ができる期間のことです。わが国では、国民生活基礎調査・健康票における質問項目である「日常生活に制限のない期間の平均」と生命表を基礎情報としたもので算出する場合が多く、上記グラフもこれに基づいています。

健康寿命は、平均寿命との差に着目しており、その差は、日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味します。疾病の予防、健康増進、介護予防等によって、平均寿命と健康寿命の差を短縮することができれば、個人の生活の質の低下を防ぐことができるため、健康寿命の延伸が重要となります。

(4) 高齢者世帯の状況

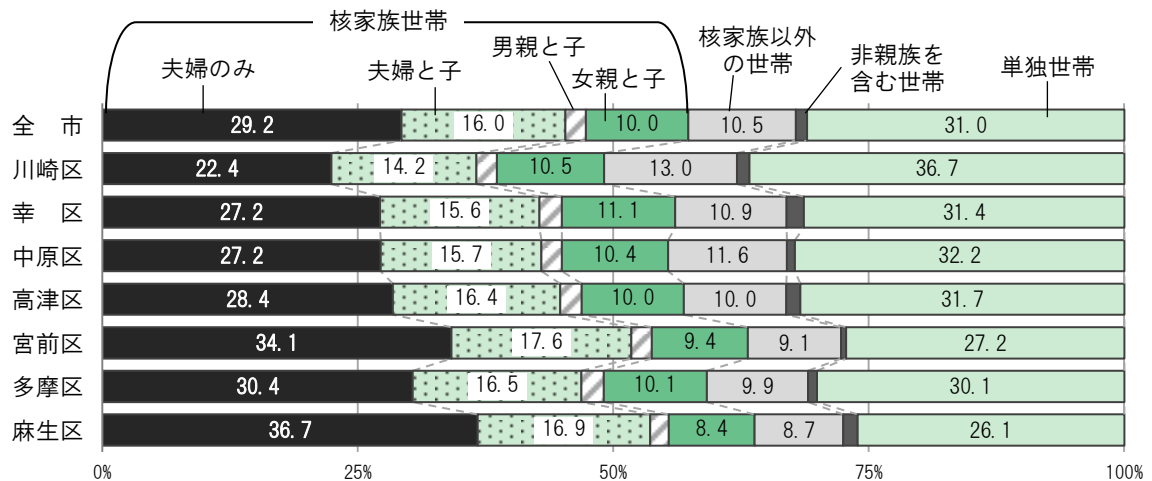
【本市の高齢者の親族のいる一般世帯】

▶一般世帯のうち、高齢者のいる世帯は約3割となっています。



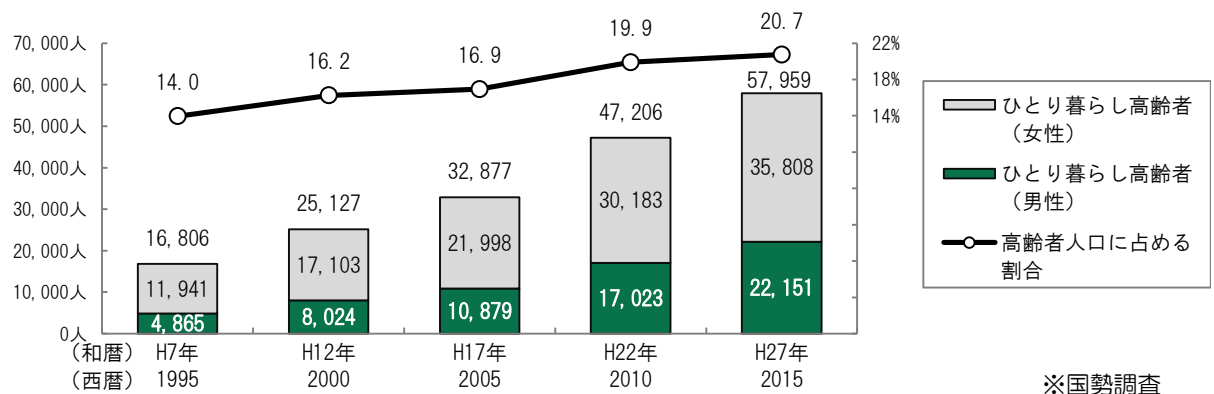
【本市の高齢者の世帯員のいる一般世帯の家族類型別割合】

▶川崎区は「単身世帯」の割合が高く、麻生区は「夫婦のみの世帯」の割合が高くなっています。



【本市のひとり暮らし高齢者数の推移】

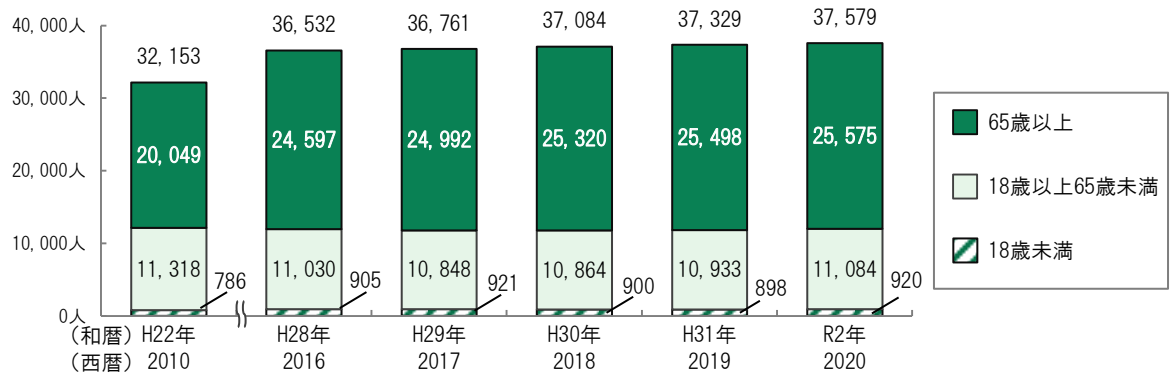
▶平成27（2015）年時点では、市の高齢者の約5人に1人がひとり暮らしとなっています（全国値は17.7%、約6人に1人）。



(5) 高齢障害者数の推移

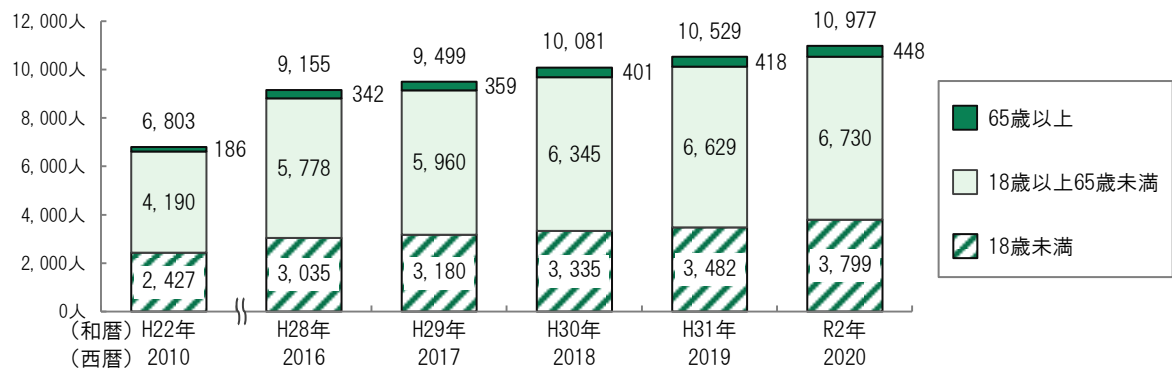
令和2（2020）年の時点で、本市の身体障害児・者の約68%は高齢者となっています。

【本市の身体障害児・者数（身体障害者手帳所持者数）の推移】



※各年4月1日時点、健康福祉局障害福祉課調べ

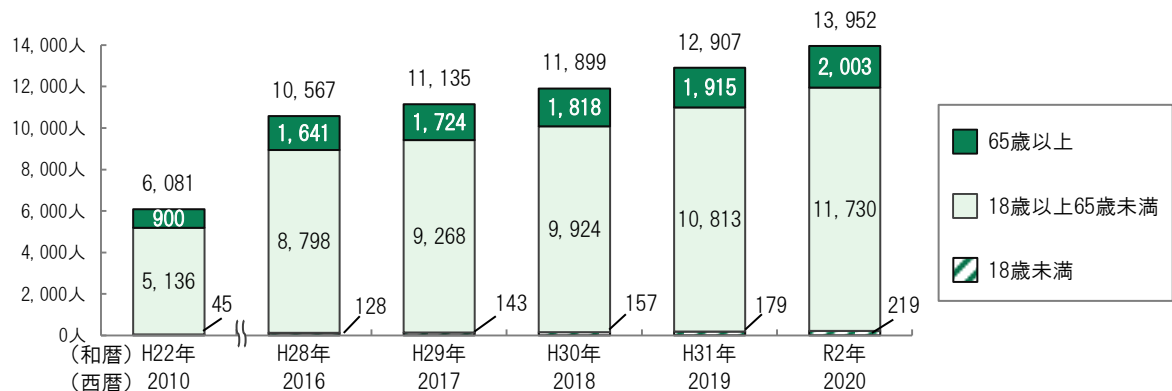
【本市の知的障害児・者数（療育手帳所持者数）の推移】



※各年4月1日時点、健康福祉局障害福祉課調べ

※知的障害は、判定のみ受けて療育手帳を所持していない方も含みます。

【本市の精神障害児・者数（精神障害者保健福祉手帳所持者数）の推移】



※各年4月1日時点、健康福祉局精神保健福祉センター調べ

(6) 在宅医療等の必要量の状況

本市の平成 37 (2025) 年の在宅医療★等の必要量は 21,730 人分で、平成 25 (2013) 年と比較して、7,909 人分の増加が見込まれています。

【平成 37 (2025) 年の本市の在宅療養者の状況 (神奈川県地域医療構想)】

単位：人

区分		平成 25 年 (2013) A	平成 37 年 (2025) B	差引 [B - A]	増加率 [B / A]
川崎北部	在宅医療等	8,014	13,599	5,586	169.7%
	(再掲)訪問診療分	6,359	9,705	3,346	152.6%
川崎南部	在宅医療等	5,808	8,131	2,323	140.0%
	(再掲)訪問診療分	4,319	5,766	1,447	133.5%
川崎市 全域	在宅医療等	13,822	21,730	7,909	157.2%
	(再掲)訪問診療分	10,678	15,471	4,793	144.9%

※平成 25 年の在宅医療等の患者数は、次の①～④の患者数の合計です。①療養病床の入院患者数のうち、医療区分 1 の患者数の 70% の患者数、②平成 25 年に在宅患者訪問診療料を算定している患者数、③平成 25 年の介護老人保健施設の施設サービス受給者数、④一般病床の入院患者のうち、医療資源投入量が 175 点未満の患者数。

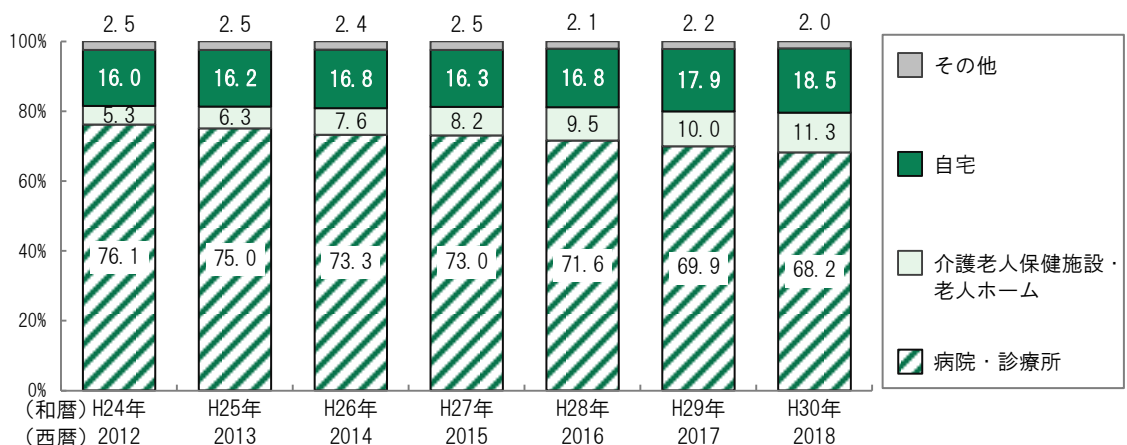
※「在宅医療等」は、居宅、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、介護老人保健施設など、病院・診療所以外の療養を営む場所で受ける医療をいいます。

※「訪問診療分」の患者数は、②の患者数を指します。

(7) 死亡場所別の死亡割合の推移

本市の「病院・診療所」での死亡割合は減少し、「自宅」及び「介護老人保健施設・老人ホーム」での死亡割合は増加傾向にあります。

【本市の死亡場所別死亡割合の推移】



※厚生労働省「人口動態調査」



在宅医療

高齢になっても、病気になっても、障害があっても住み慣れた地域で自分らしい生活が続けられるよう、入院医療や外来医療、介護・福祉サービスと相互に補完しながら、患者の日常生活を支える医療のことをいいます。

4 川崎市における高齢者の意識と実態

令和元年度川崎市高齢者実態調査（以下「高齢者実態調査」といいます。）における、本市の高齢者の日常生活や社会参加、いきがいなどについての意識や実態に関する結果は、次のとおりです（調査概要については、第1章を参照）。

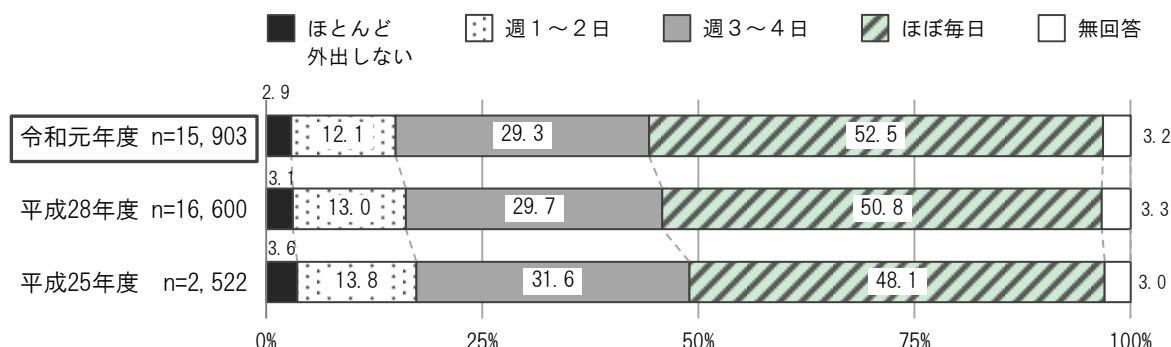
※図表中の「n」は各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（％）の母数をあらわしています。また、年度の記載がない図表は令和元年度の調査結果です。

（1）外出頻度

【一般高齢者調査】

問 あなたは、1週間のうちどのくらい外出していますか（単一回答）。

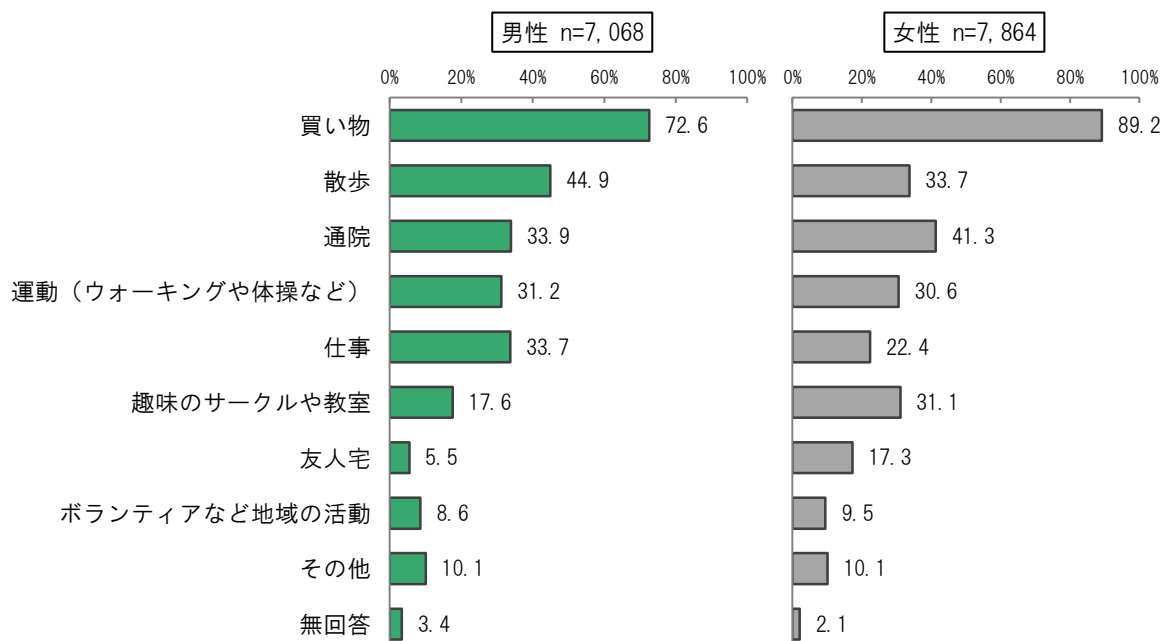
▶半数以上の人「ほぼ毎日」外出しています。



（上問で「外出する」と答えた方）

問 主な外出先（外出理由）はどれですか（複数回答）。

▶「買い物」「趣味のサークルや教室」「友人宅」などは女性の割合が高く、「散歩」「仕事」などは男性の割合が高くなっています。

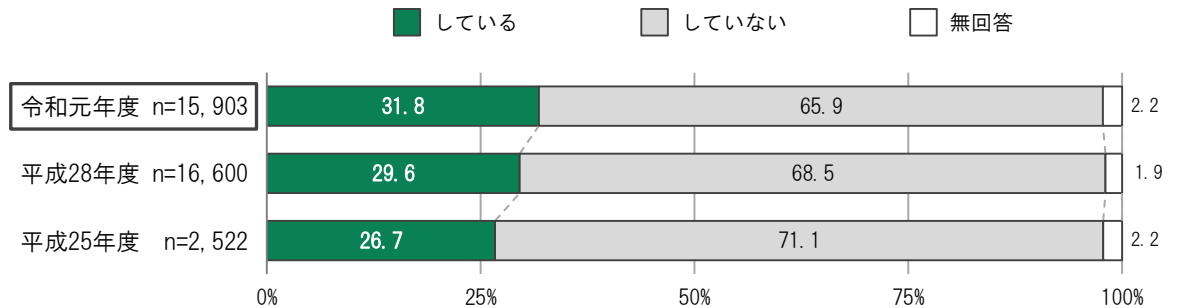


(2) 就労状況

【一般高齢者調査】

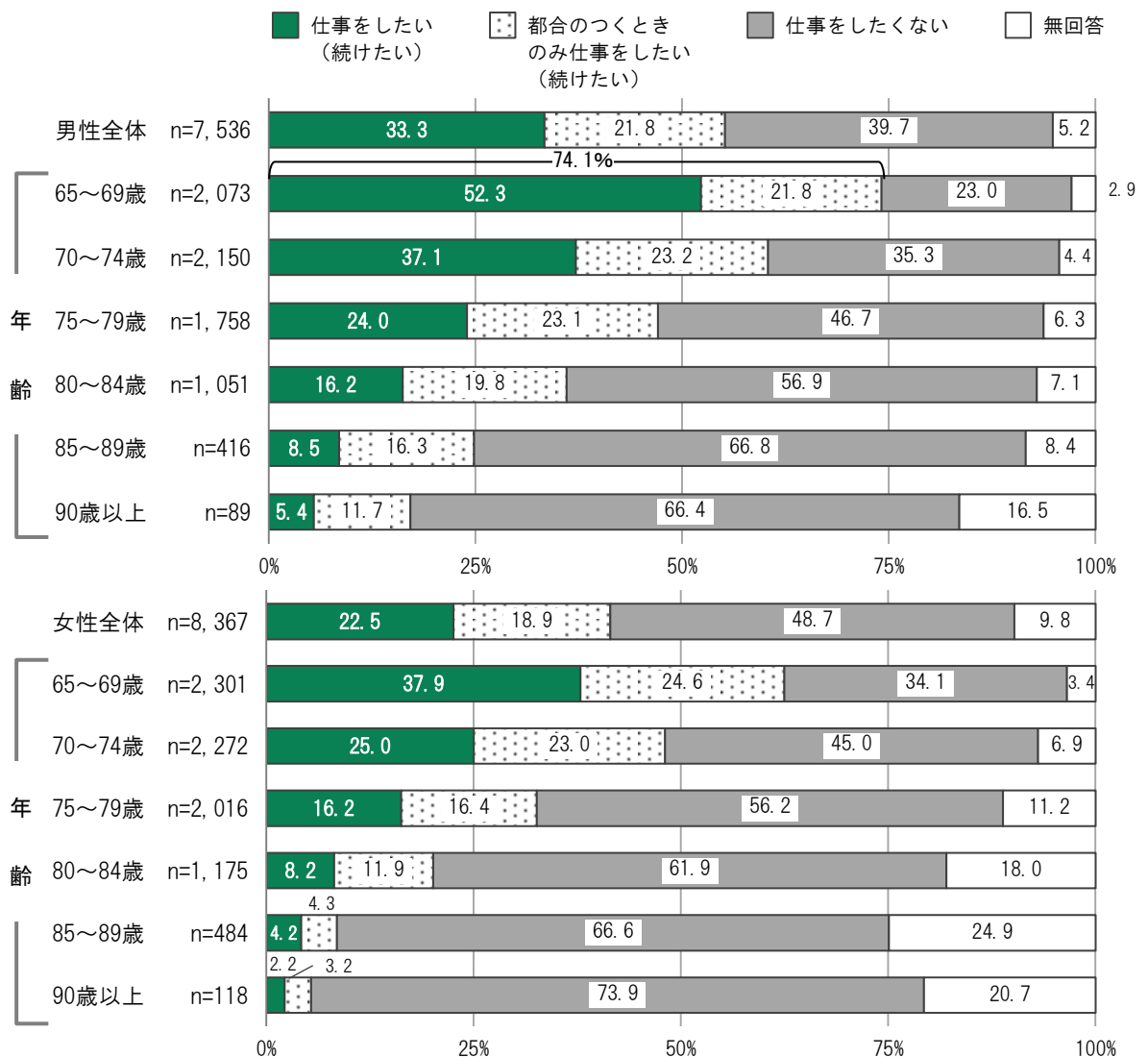
問 あなたは現在、収入がともなう仕事をしていますか（単一回答）。

▶約3割の人が収入がともなう仕事をしています。



問 あなたは、今後収入がともなう仕事をしたい（続けたい）と思いますか（単一回答）。

▶65～69歳の男性は『就労意向がある』人が7割を超えています。



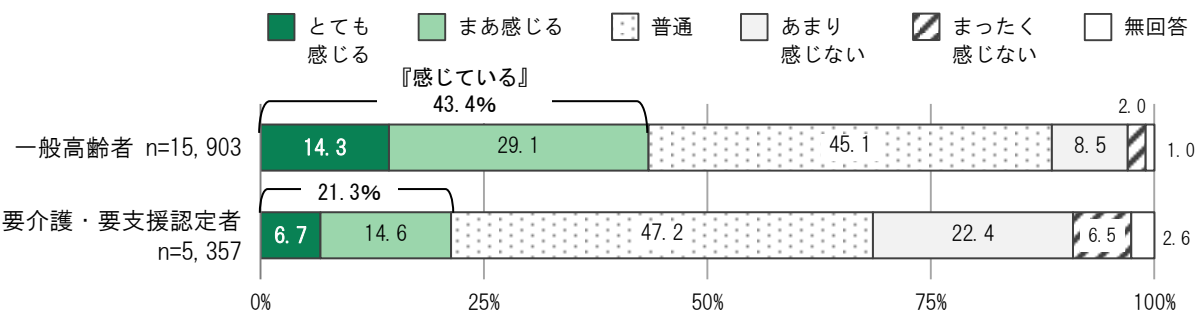
※『就労意向がある』＝「仕事をしたい（続けたい）」＋「都合のつくときのみ仕事をしたい（続けたい）」

（3）生活のはりや楽しみ

【一般高齢者調査／要介護・要支援認定者調査】

問 あなたは、現在の生活に「はり」や「楽しみ」を感じていますか（単一回答）。

▶生活に「はり」や「楽しみ」を『感じている』人は一般高齢者で4割超、要介護・要支援認定者で約2割となっています。



※『感じている』＝「とても感じる」＋「まあ感じる」

▶一般高齢者では、仕事をしている人や健康状態が良い人ほど、生活にはりや楽しみを『感じている』割合が高く、要介護・要支援認定者では、要介護度が高いほど、生活にはりや楽しみを『感じている』割合が低くなっています。

単位：％

項目		回答者数（人）	とても感じる	まあ感じる	普通	あまり感じない	まったく感じない	『感じている』	『感じていない』
一般高齢者		15,903	14.3	29.1	45.1	8.5	2.0	43.4	10.5
健康状態	非常に健康	1,917	45.0	30.0	22.7	1.9	0.1	75.0	2.0
	ほぼ健康	10,690	12.2	33.3	47.6	5.7	0.8	45.5	6.5
	あまり健康でない	2,659	3.7	15.6	54.0	21.4	4.9	19.3	26.3
	健康でない	451	3.0	10.5	35.9	27.1	22.2	13.5	49.3
仕事の有無	している	5,058	18.7	32.9	40.4	6.2	1.0	51.6	7.2
	していない	10,488	12.4	27.5	47.2	9.5	2.5	39.9	12.0
要介護・要支援認定者		5,357	6.7	14.6	47.2	22.4	6.5	21.3	28.9
要介護度	要支援1	992	8.8	17.7	52.5	14.6	3.3	26.5	17.9
	要支援2	1,103	8.5	17.0	51.0	17.8	3.8	25.5	21.6
	要介護1	1,216	7.6	14.4	50.3	20.1	5.7	22.0	25.8
	要介護2	966	4.9	16.0	42.7	26.7	7.0	20.9	33.7
	要介護3	537	4.6	8.4	42.9	32.5	9.1	13.0	41.6
	要介護4	319	2.8	9.5	39.8	32.8	12.0	12.3	44.8
	要介護5	224	2.5	6.4	27.5	33.1	23.5	8.9	56.6

※「無回答」は掲載を省略

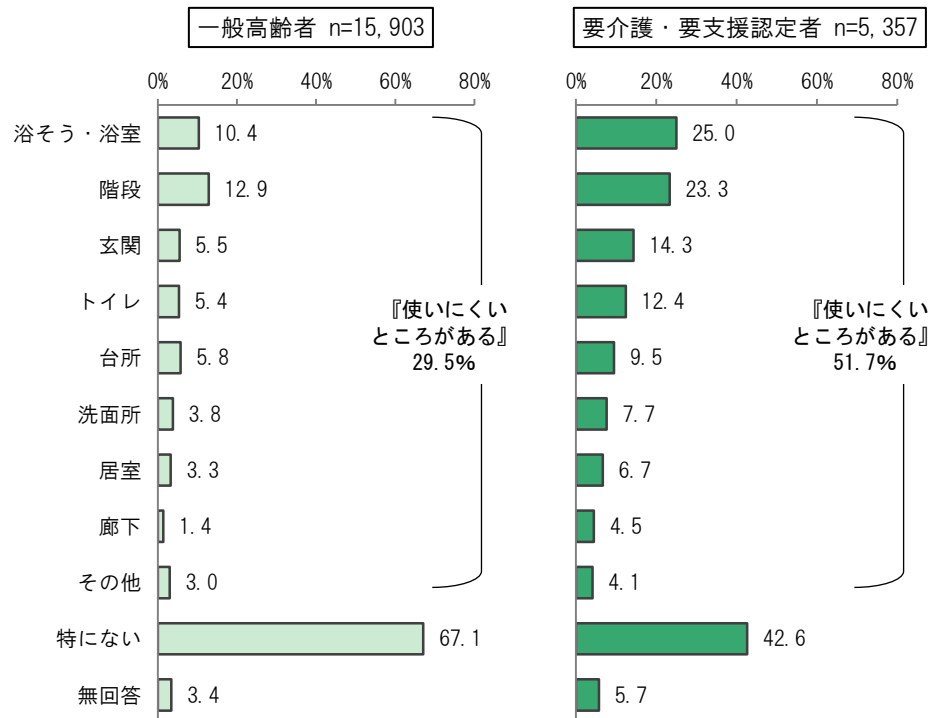
※『感じている』＝「とても感じる」＋「まあ感じる」、
『感じていない』＝「あまり感じない」＋「まったく感じない」

(4) 住まいで使いにくいところ

【一般高齢者調査／要介護・要支援認定者調査】

問 現在の住まいで使いにくいところがありますか（複数回答）。

▶『使いにくいところがある』人は、一般高齢者で約3割、要介護・要支援認定者で約5割となっています。



※『使いにくいところがある』＝100%－「特にない」－「無回答」

▶要介護・要支援認定者のうち『使いにくいところがある』割合は、要介護3が約6割、要介護4以上が6割以上となっています。

単位：％

項目	回答者数（人）	浴そう・浴室	階段	玄関	トイレ	台所	洗面所	居室	廊下	『使いにくいところがある』
要介護・要支援認定者	5,357	25.0	23.3	14.3	12.4	9.5	7.7	6.7	4.5	51.7
要介護度	要支援1	992	16.2	21.2	9.7	7.5	7.9	4.5	3.9	45.5
	要支援2	1,103	22.5	22.1	10.9	9.2	10.7	6.6	5.4	49.8
	要介護1	1,216	22.5	20.9	12.5	9.2	6.7	5.6	6.2	45.1
	要介護2	966	31.3	25.7	16.4	16.3	13.8	9.6	9.9	57.9
	要介護3	537	32.9	26.3	21.7	17.6	10.1	10.4	8.0	59.6
	要介護4	319	31.7	27.8	19.8	23.6	6.3	11.9	8.3	63.0
	要介護5	224	35.0	27.9	28.4	22.9	10.5	16.1	8.0	61.5

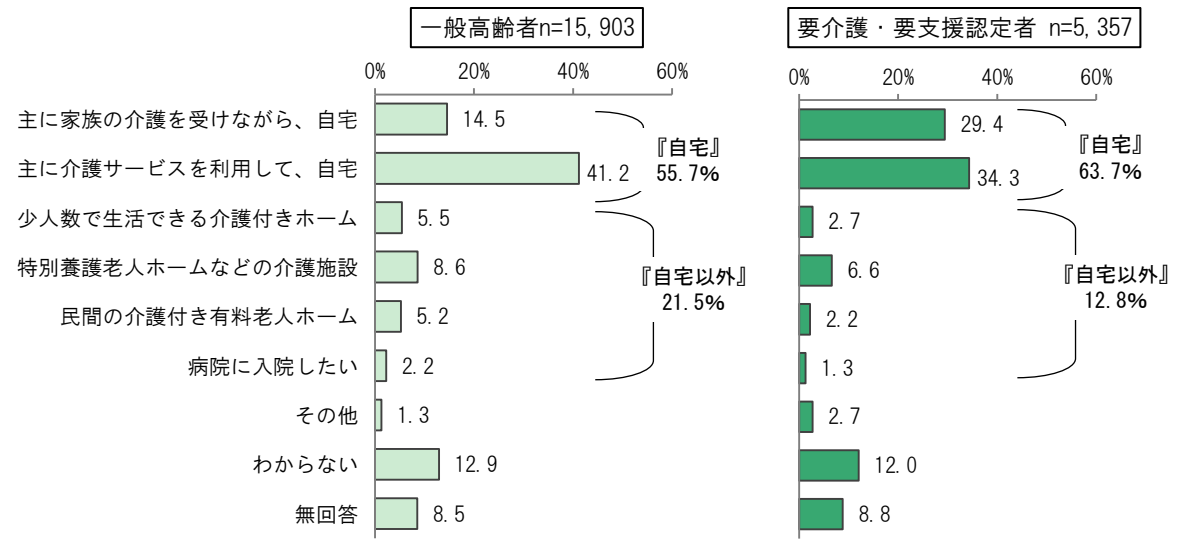
※「無回答」は掲載を省略

(5) 今後の暮らし方

【一般高齢者調査（再掲）／要介護・要支援認定者調査】

問 あなたは、介護が必要になった場合、どのようにしたいですか／今後、どのようにしたいですか（単一回答）。

▶『自宅』での暮らしを希望する人は、一般高齢者で5割超、要介護・要支援認定者で6割超となっています。



▶要介護・要支援認定者のうち『自宅』での暮らしを希望する人は、「ひとり暮らし高齢者」でも5割を超えています。

単位：％

項目		回答者数（人）	主に家族の介護を受けながら、自宅 で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅 で暮らしたい	少人数で生活できる介護付きホーム（住宅）で暮ら したい	特別養護老人ホームなどの 介護施設に入りたい	民間の介護付き有料老人 ホームに入りたい	病院に入院したい	『自宅』	『自宅以外』
要介護・要支援認定者		5,357	29.4	34.3	2.7	6.6	2.2	1.3	63.7	12.8
家族構成	ひとり暮らし高齢者	1,412	12.4	42.0	4.2	7.0	3.9	1.6	54.4	16.7
	夫婦世帯	1,594	33.6	32.4	2.1	6.4	1.4	1.5	66.0	11.4
	子や孫など同居	1,866	38.7	31.8	1.8	6.4	1.5	1.1	70.5	10.8
	その他の世帯	320	30.1	24.8	4.2	6.5	3.4	0.4	54.9	14.5

※「その他」「わからない」「無回答」は掲載を省略

※『自宅』＝「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」＋「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」

※『自宅以外』＝「少人数で生活できる介護付きホームで暮らしたい」＋「特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」＋「民間の介護付き有料老人ホームに入りたい」＋「病院に入院したい」

【要介護・要支援認定者調査】

問 現時点での、施設への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（単一回答）。

▶要介護・要支援認定者のうち、施設への入所・入居を検討している（「すでに申し込み」を含む）割合は、要介護3以上の「ひとり暮らし高齢者」で高くなっています。

単位：％

項 目		回答者数 (人)	入所・入居は 検討していない	入所・入居を 検討している	すでに入所・ 入居申し込み・ している
要介護・要支援認定者		5,357	63.1	17.5	6.7
家族構成×要介護度	ひとり暮らし高齢者	1,412	56.8	20.8	8.1
	要支援1	343	58.4	18.4	3.4
	要支援2	355	62.3	18.4	3.7
	要介護1	354	61.7	18.8	7.6
	要介護2	195	52.3	25.8	9.8
	要介護3	86	33.8	33.0	24.4
	要介護4	55	46.7	28.2	15.6
	要介護5	24	21.5	17.4	61.2
	夫婦世帯	1,594	63.9	18.6	4.6
	要支援1	308	70.8	11.4	2.1
	要支援2	326	65.8	16.9	1.4
	要介護1	344	66.9	18.0	2.0
	要介護2	305	63.8	21.9	4.5
	要介護3	177	54.3	24.8	9.7
	要介護4	70	43.8	29.7	18.9
	要介護5	64	53.2	20.2	17.1
	子や孫など同居	1,866	69.8	14.9	5.3
	要支援1	274	73.9	9.1	0.7
	要支援2	320	74.8	9.7	0.2
	要介護1	407	74.6	13.6	3.5
	要介護2	385	69.8	20.5	3.5
	要介護3	216	62.1	21.1	11.0
	要介護4	159	56.3	17.0	16.7
	要介護5	105	61.2	14.1	17.2

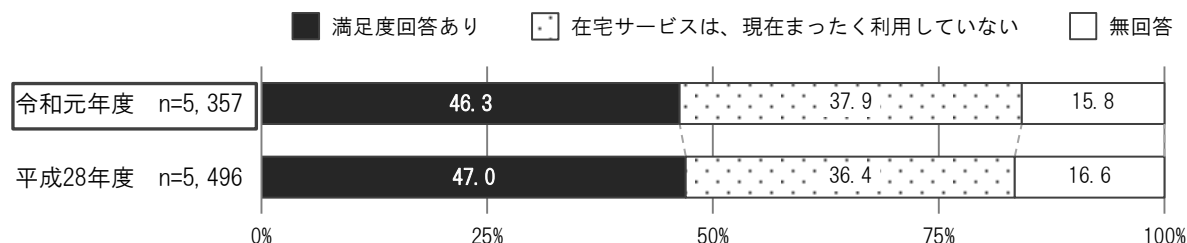
※「その他の世帯」「無回答」は掲載を省略

(6) 在宅サービスの利用状況

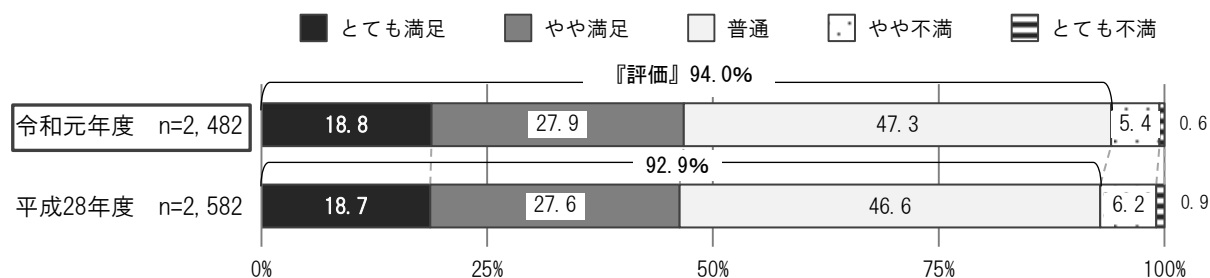
【要介護・要支援認定者調査】

問 在宅サービスの利用全体についての満足度をご回答ください（単一回答）。

- ▶要介護・要支援認定者のうち、「在宅サービスは、現在まったく利用していない」人が約4割となっています。



- ▶在宅サービスを利用している人のうち、利用全体を『評価』している（「不満」がない）人が9割を超えています。

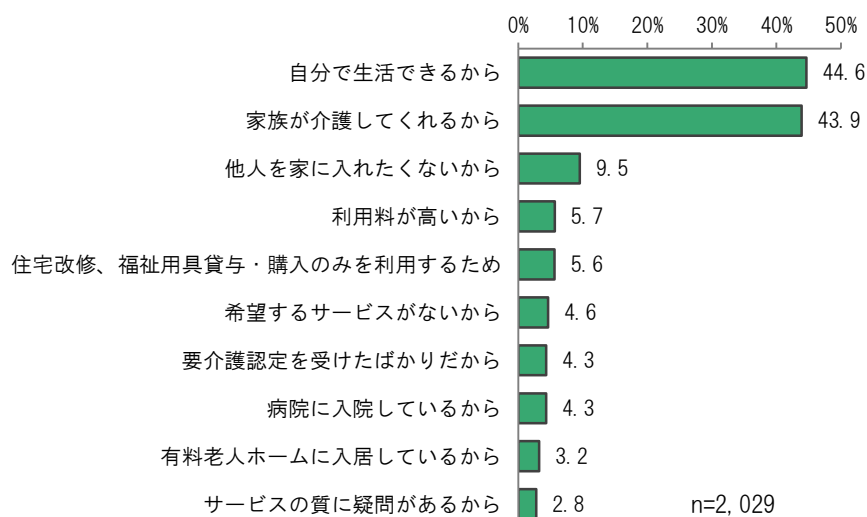


※『評価』＝「とても満足」＋「やや満足」＋「普通」

※「利用していない」「無回答」を除く回答者数のうち、満足度の割合

問 （上問で「在宅サービスは、現在まったく利用していない」と答えた方）
その理由についてご回答ください（複数回答）。

- ▶在宅サービスを利用していない理由は、「自分で生活できるから」「家族が介護してくれるから」が4割を超えています。



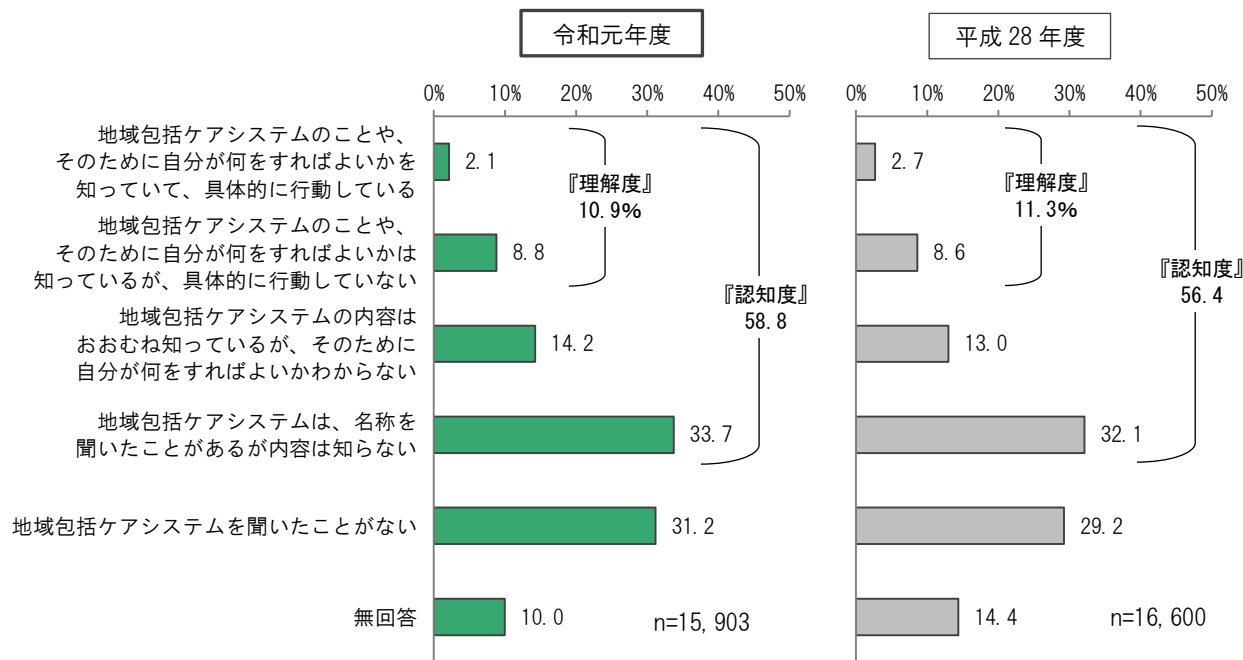
※上位10項目を掲載

(7) 地域包括ケアシステムの理解度

【一般高齢者調査】

問 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものについて、ご回答ください（単一回答）。

▶ 地域包括ケアシステムの『認知度』が約6割、『理解度』が約1割となっています。『理解度』が前回調査よりやや下がりました。



▶ 女性のほうが地域包括ケアシステムの『理解度』や『認知度』がやや高くなっています。

項目		回答者数（人）	理解度					認知度	
			1	2	3	4	5	1	2
一般高齢者		15,903	2.1	8.8	14.2	33.7	31.2	10.9	58.8
性別	男性	7,536	1.8	6.8	11.1	33.4	37.5	8.6	53.1
	女性	8,367	2.5	10.6	17.1	34.0	25.4	13.1	64.2
居住区	川崎区	2,693	2.2	7.6	12.9	31.1	33.1	9.8	53.8
	幸区	1,937	2.8	9.4	14.9	33.2	29.3	12.2	60.3
	中原区	2,117	2.3	8.9	15.2	31.0	32.9	11.2	57.4
	高津区	2,234	2.3	8.3	14.2	33.6	31.4	10.6	58.4
	宮前区	2,514	2.2	9.6	12.7	34.6	31.9	11.8	59.1
	多摩区	2,214	1.6	7.8	13.6	35.3	32.3	9.4	58.3
	麻生区	2,194	1.8	10.3	16.7	37.5	26.4	12.1	66.3

※「無回答」は掲載を省略
※『理解度』＝「地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っていて、具体的に行動している」＋「地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかは知っているが、具体的に行動していない」
『認知度』＝『理解度』＋「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」＋「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」

